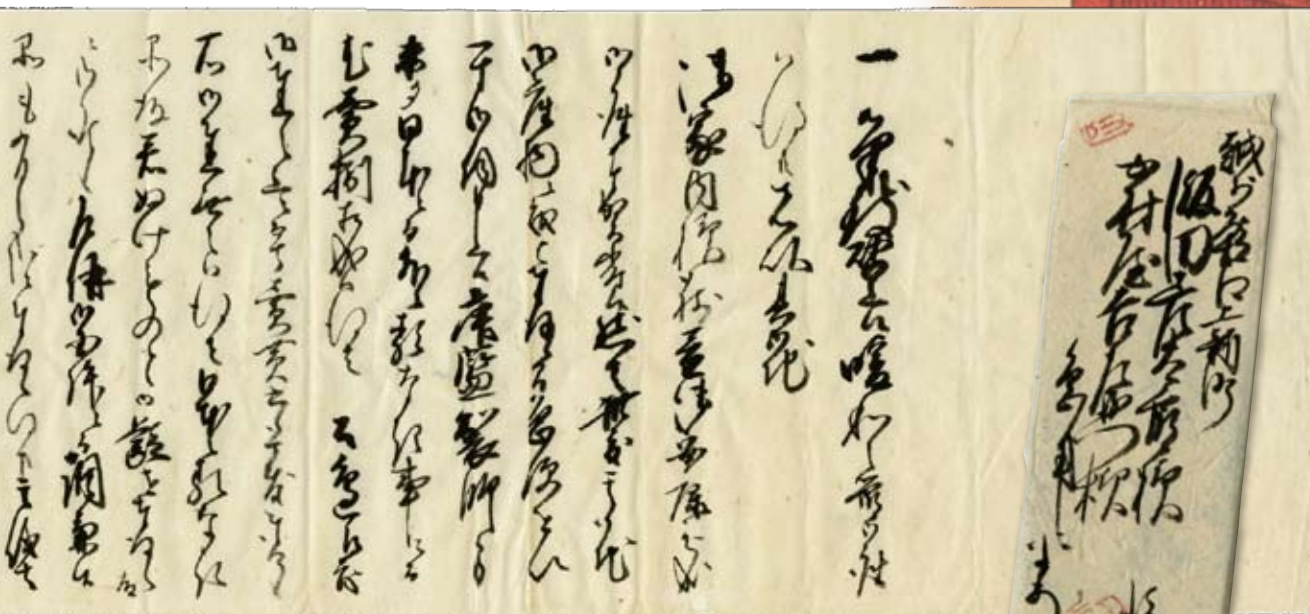
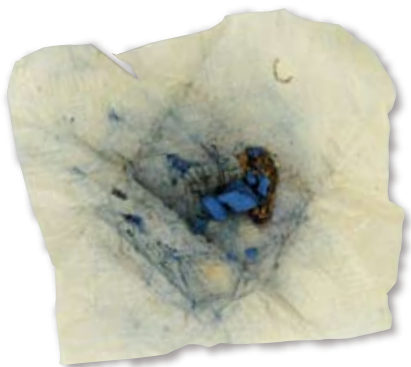


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



「唐藍製法売込みの書状」と書状から出てきた青色顔料（飯田広助家文書 G0024-06476 当館寄託）



第16号目次

- 特集1 資料を未来へ伝えるために… 2
- 特集2 学校連携への取組み… 3
- 公文書紹介… 4
- 寄贈・寄託資料紹介… 5
- 活動報告… 6・7
- お知らせ… 8

第16号
2010.10

福井県文書館

特集 1

資料を未来へ伝えるために

文書館では、みなさまからお預かりした大切な資料を未来へ伝えるために、* I P Mの観点から、より安全で環境にやさしい方法で、さまざまな取組みを行っています。

* I P M(総合的害虫管理)とは？

化学薬剤だけに頼らず、複数の防除法を合理的に組み合わせることで生物被害をできるだけ回避し、制御する方法です。

くん蒸方法の見直し

文書館では今年度から、「環境にやさしい」二酸化炭素を利用した殺虫処理を採用することになりました。



▲くん蒸庫

書庫内環境の整備 ほこり ~資料の大敵は湿気と埃です！~



●クリーニング

文書館に寄贈・寄託された資料は、くん蒸後、埃を除去してから書庫に収蔵します。

●粘着マット

書庫の前室に入る際、粘着マットを通過することで、靴底の埃を除去します。

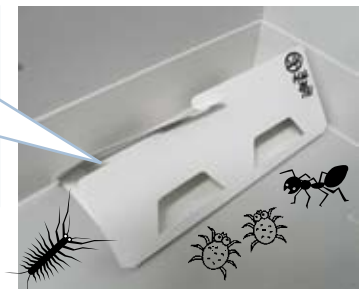


●温・湿度管理

温・湿度計を各書庫に設置しています。また、職員が書庫に入室した際、異常を肌で感じた場合には担当者に連絡し、書庫内のチェックを行います。

●モニタリング調査 (粘着トラップの設置)

粘着トラップは、一面に粘着性物質が塗布されており、昆虫を付着させて捕獲します。各書庫の広さや構造に合わせて設置し、毎月チェックして記録しています。昆虫を捕まえるだけでなく、どのような虫が発生・侵入しやすいか傾向をつかんだ上で、対策を立てることができます。



●清掃活動

月に一度の清掃整理日や、年に一度の文書等点検期間を利用して、書庫や前室の清掃に力を入れていきます。

◀職場体験で来館した中学生も清掃に励みました。

以上のように、文書館では特別なことをしているわけではありません。日頃のこまめな観察と清掃活動が基盤になっています。いち早く異変に気づき、対処することで、資料を守り、未来に伝えることができると考えています。

文書館での取組みには、ご家庭でもできることが含まれています。ぜひ、ご家庭でもできることを探して、お手元の大切な資料を、未来に伝えてもらいたいと思います。



★ご家庭でお持ちの資料に関してお困りのことなどございましたら、お気軽に文書館にお問い合わせください。

特集 2

学校連携への取組み

文書館では、若い世代に文書館の資料に親んでもらうために、学校との連携に力を入れ、小・中・高校の各段階に応じた企画を進めています。ここではその一端を紹介します。

小学生

ふだん文書館を利用する機会が少ない小学生には、楽しい印象をもってもらうよう、体験を重視し、江戸時代の古文書の実物を間近に見たり、明治時代のすごろくやパズル遊びに挑戦したりしています。大人でも読むことが難しい古文書ですが、小学生たちは柔軟な発想で、意外にくずし字を読むことができます。



▲6月4日(金) 六条小学校(福井市)が総合学習で来館



▲7月23日(金)・29日(木) さざんか児童館(福井市)の見学

中学生



▲7月17日(土) 郷土新聞作りポイント講座

文書館では明治以降の新聞の縮刷本や、地域の歴史調べに役立つ刊行物を多く所蔵しています。

その特性を生かして*NIEとの連携をはかり、中学生の「郷土新聞作り」をサポートしています。夏休み期間には、文書館のデータベースを使った、新聞作りに役立つ資料の調べ方を紹介しました。

*NIE(Newspaper In Education)は「教育に新聞を」の意で、学校教育で新聞を教材として利用する学習活動。



▲県内中学校に配布した文書館新聞

高校生

高校生には、授業で学ぶ機会が少ない古文書の世界の体験や、自分の育った地域の歴史をより深く知ってもらうための企画を実施しています。たとえば、出張古文書講座や学校祭での巡回展示です。とくに今年度は文書館が中心となり、県内初の試みとなる武生高校図書館・県立図書館との連携企画がスタートしました。

★武生高校との連携企画「ふくいヒストリア」全5回シリーズ

- 第1回 巡回展示「昔の新聞あれこれ」および展示説明会
- 第2回 出張講座「インターネットを利用した郷土資料の活用法」
- 第3回 施設見学「文書館・図書館のお宝紹介」
- 第4回 古文書入門講座「江戸時代のかわら版から明治の新聞まで」
- 第5回 巡回展示「2月7日は何の日？ふるさと越前市」および展示説明会



▲9月3日(金)～10日(金) 巡回展示「昔の新聞あれこれ」
会場：武生高校

公文書紹介

50年前の国勢調査の広報



▲「昭和 35 年 国勢調査広報宣伝関係綴」28303
統計文書課（1960年）



▲テレビ用に配布されたスライド原画の一部

今年2010年(平成22)は、5年に一度の国勢調査の年です。国勢調査は、1920年(大正9)に第1回が実施されて以来、今年で19回目となります。10月1日現在の調査ということで、今回も調査員が各世帯を訪問して調査票を配布、回収する光景が見られました。

さて、文書館では、ちょうど50年前の1960年(昭和35)に実施された第9回国勢調査に関連した、国勢調査の広報宣伝に関する公文書「国勢調査広報宣伝関係綴」を所蔵しています。

国(総理府統計局)から、国勢調査宣伝ポスター図案の懸賞募集、宣伝用文化映画「統計と生活」等が送付されたほか、民間放送の協力を得てラジオやテレビを積極的に活用することが県に指示されました(ちなみに福井県内でのテレビ放送開始は、前年の1959年8月です)。

県では、ラジオやテレビ、電光ニュース、広報車による宣伝のほか、各市町村を通じてポスターを掲示してもらうことはもちろん、市町村等が発行する広報紙にキャンペーン記事を掲載してもらい、また、電車やバス等の待合客への案内放送に加えて、農業協同組合の有線放送を利用するなどして県民への周知に努めたことが公文書からわかります。

なお、今年同様50年前にも“福井県予想人口懸賞募集”が実施されました。応募者1,226名のうち、正解に最も近い人には1等賞金5,000円のほか、魔法瓶、電気アンカ等が贈られたそうです(1960年当時の官製ハガキは5円でした)。



▲「国勢調査員家庭訪問」(1965年) 当館蔵

寄贈・寄託資料紹介

複製本ができたものから公開しています。

■ 松田三左衛門家文書 (A0169) 寄贈

南菅生浦(現福井市)は、越前岬の北東にあり、おもに製塩やウニ漁などで生計をたてていました。大半は三左衛門がほぼ続けて庄屋を務めた1808年(文化5)以降の文書で、触・貢租・戸口・山境などの資料が豊富に残されています。あわせて同家が経営した塩・諸産物の売買関連とともに、暦や錦絵なども含まれる3,117点です。

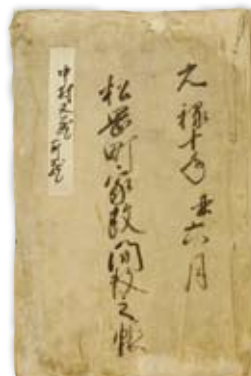


▲「乍恐口上書を以奉願上候(長橋浦・両菅生浦雲丹御用二付願書)
A0169-00227

■ 吉野屋文書 (B0030) 寄贈

松岡は福井平野の東端、九頭竜川中流域に位置し、1645年(正保2)松平昌勝5万石の城下町として建設されましたが、1721年(享保6)松岡藩廃藩後は、在郷町に変貌していきました。吉野屋は酒造業・両替商などを営む松岡町の大商人で、明治期には松岡内の極印町の町会議長なども務めました。

寄贈された資料は近世資料を中心に吉野屋の商売関係、巡検使関係、松岡町に関する資料、売券・借用証文、私家文書など1,504点です。



▲「松岡町家数間数之帳」
B0030-00001

■ 山田三郎兵衛家文書 (I0011) 寄贈

今井村は大野盆地の南端、真名川左岸に位置します。山田家は代々三郎兵衛を称し、庄屋などの村役人を務め、明治期には副戸長を務めました。寄贈された資料は近世資料を中心に、年貢関係、用水関係などの庄屋文書が多数を占める1,501点です。



▲「越前国大野郡今井村御検地帳」
I0011-00201

■ 大家紹嘉文書 (X0148) 寄託

大家家は加賀国橋立(現在の石川県加賀市)で北前船の船主だった家です。今回寄託された資料は、収集資料の遺愛帖です。これは、幕末の福井藩主松平慶永の側近として活躍した福井藩士、鈴木主税(1814~56年)あての書簡を折本仕立てにしたもので、乾・坤2帖からなります。



▲「遺愛帖」
X0148-00001

新たに公開した古文書紹介

前号紹介後に新たに公開した資料群は以下の通りです。(寄贈・寄託文書は除く)

- | | | |
|--------------------|--------------------|---------------------|
| ●C0087 網頭屋(坂井市) | ●C0115 新谷吉造家(坂井市) | ●F0009 山岸善四郎家(鯖江市) |
| ●F0015 尾崎善兵衛家(鯖江市) | ●F0032 館庄兵衛家(鯖江市) | ●F0049 田部井英明家(鯖江市) |
| ●F0052 大野藩堀家(鯖江市) | ●G0005 岡文雄家追加(池田町) | ●G0020 市橋六右衛門家(越前市) |

活動報告

講座や講演会、学校行事や地域での活動など、ぜひ文書館をご利用ください。

今年度の新たな取組みを紹介します

● 収蔵資料を高齢者施設に貸出し

文書館所蔵の昔のすごろくを、高齢者福祉施設に貸出し、楽しんでもらいました。



施設の職員の方にお話を伺いました。

昔の遊びということで興味が深まり、絵合わせなど、数人で取組み、協力することで、仲間意識や集中力につながっていったと思います。また、完成した時の喜びを皆で味わうことができ、大変好評でした。苦心する表情や喜びの表情が鮮明で見ていた職員も思わず夢中になりました。

昔のすごろくで遊んでみませんか？

文書館では、明治時代のすごろくを多数所蔵しており、その一部をポスター大に複製して体験できるようにしています。これらの資料を学校・福祉施設などで活用してみませんか？どうぞ、お気軽にお問い合わせください。



● 資料保存ラウンドテーブル（意見交換）の開催

6月18日(金)

講師：財元興寺文化財研究所 金山正子氏

県下の資料保存機関が集まり、4～6名のグループに分かれて、ラウンドテーブルを開催しました。「県下の歴史資料散逸について」というテーマで活発な意見交換が行われ、収蔵・保存管理・廃棄についての問題提起、資料の散逸を防ぐためのネットワーク作りの必要性の指摘など、多くの意見が出されました。今後ともぜひ続けていきたいと考えています。

ラウンドテーブル終了後には資料保存研修会が開かれ、書庫管理のポイントおよび繕いなどの簡単な資料の修復の方法を学びました。



● 若狭での出張講座・巡回展示開催

文書館からは遠い地域の方々にも文書館を利用してほしいということで、今年度は若狭町歴史文化館・若狭図書学習センターにおいて、古文書出張講座・巡回展示を開催しました。



▲古文書出張講座



▲巡回展示「ちょっと昔の福井県～若狭編～」

講座紹介

●古文書入門講座

5月29日(土)、6月5日(土)、12日(土)(3回シリーズ)
講師：文書館職員

変体がなや基本的なくずし方や言い回しを学んだ後、県内に残る近世の古文書に挑みました。

参加者の声

- 毎回2時間の講座があつという間に終わってしまった。
- 後半かなり難しくなったが、楽しく勉強できた。
- 古文書を読む入り口としてのきっかけになった。少しずつ努力して読めるようになりたい。

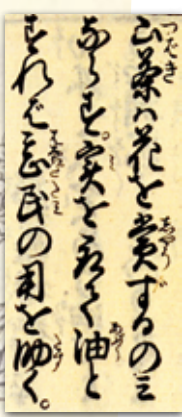


●古文書読解講座

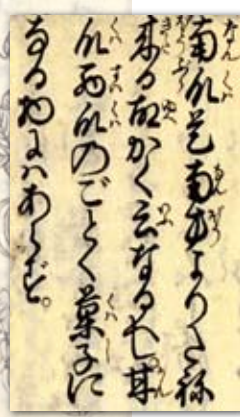
毎月第4金曜日

古文書がある程度読めるようになった中級者の方を対象に、毎月1回古文書の輪読をしています。

『再板 農業全書』 十八世紀末
坪田仁兵衛家文書(当館寄託) C0005-00404



その昔

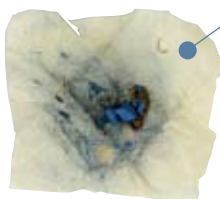


その昔

ミニ古文書講座
古文書で脳カアップ！
絵をヒントに読んでみましょう。
(答えは8pにあります)

Cover Photo Story

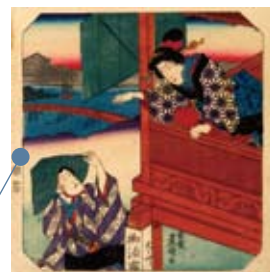
表紙写真



「唐藍製法売込みの書状」と書状から出てきた青色顔料 年未詳
(飯田広助家文書 G0024-06476 当館寄託)



「東海道五十三対 吉田」 1845年(弘化2)
(松田三左衛門家文書 A0169-03426 当館蔵)



京から鯖江藩の大庄屋にあてられた手紙から、青いかたまりが出てきました(手紙の内容から嘉永3年から安政5年(1850-58)までの間と推定)。研究者*の分析から、これは合成顔料のプルシアンブルー**で、この手紙が書かれた安政年間には純度は低いものの国内で合成されたことが確認されました。手紙は唐藍(プルシアンブルー)を鯖江の産物にしてはどうかと売り込むもので、サンプル付きでその製造方法が解説されています。「東海道五十三対」は、プルシアンブルーが広く用いられた時期の浮世絵です。

* 勝盛典子氏(神戸市立博物館)・朽津信明氏(東京文化財研究所)

** プルシアンブルーは、18世紀初めにヨーロッパで合成された青色顔料で、長崎貿易を通じて輸入され、1830年代以降広く浮世絵や絵馬などに使用されました。

お知らせ

展示・講座のご案内

企画展

「知られざる幕末維新 福井藩士の記録」

平成22年10月29日(金)～平成22年12月23日(木)

会場：文書館閲覧室

県史講座

*平成22年11月13日(土) 13:30～15:30

「文久三年の龍馬と福井藩」

講師：吉田健（文書館古文書調査専門員）

会場：図書館多目的ホール

*平成23年2月19日(土) 13:30～15:30

「信長と越前（仮題）」

講師：高木久史氏（安田女子大学講師）

会場：図書館多目的ホール

講演会

平成23年2月12日(土) 13:30～15:30

「他国修行－福井藩教育改革の軌跡（仮題）」

講師：熊澤恵里子氏（東京農業大学教授）

会場：図書館多目的ホール

県史講座、講演会は申込み不要です。

ご利用案内

開館時間

午前9時から午後5時まで

休館日

月曜日（休日は除く）

休日の翌日（土、日、休日は除く）

文書等点検期間（年間10日以内）

年末年始（12月28日～1月4日）

清掃整理日（12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日）

フレンドリーバス（無料）をご利用ください。



文書館の研修室をご利用ください。



○文書館の研修室（定員40名）を会議や打ち合わせなどに利用できます。

○使用する半年前の月の初日から予約を受け付けます。詳細などお気軽に文書館にお問い合わせください。

ミニ古文書講座の答え

その昔
「南瓜は南方よりたね来る故かく
ぼうぶら云なるへし。甘瓜西瓜のごとく
菓子になる物にハあらず。」

その昔
「山茶花を賞ずるのミならず。
実を取て油とすれば 甚民の
用を助く。」

編集後記

たより第16号をお届けします。今号では、当館の資料保存・学校連携への取組みを特集しました。今後も文書館に親しみをもっていただくためにさまざまな取組みを行っていきます。

文書館だより Fukui Prefectural Archives 第16号

平成22年10月31日発行

編集・発行／福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp

